様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ３０ 日現在

機関番号：３３９１０
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ１３８６４

研究課題名（和文）冷戦期アジアにおける汎リージョナル・メディアの研究――PANA通信社を例に

研究課題名（英文）A Study on Pan-Regional Media in Asia during the Cold War: The Case of PANA News Agency

研究代表者
岩間　優希（IWAMA, Yuki）

中部大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：００５８４０９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究により、PANA通信社のネットワークに参加したアジア諸国支社の状況・歴史的背景、携わったジャーナリストの人物像、そして冷戦期アジアという複雑な地政学的位置において同社の果たした意義について明らかにすることができた。例えば、バンコクのPANAではUSIS（アメリカ合衆国広報局）や外国特派員協会の設立にも関わった華僑のジャーナリストが経営していたことや、各国の為政者や国王が国際的な声明を出す際にPANA通信社を通じて発信していた例などを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
今でこそ成長著しいアジア諸国であるが、1950～60年代には経済水準も国際的地位も低く、植民地からの独立を果たしたばかりで政治的不安定が続いていた。そのような時代に、アジア諸国のジャーナリストたちが協力し合って通信社を経営したことは歴史的に大変重要な試みである。本研究では、メディア史はおろか当該時期の状況に関する記録が極度に少ない中で、写真や手紙、メモなどの個人資料やオーラルヒストリーも駆使しながら冷戦期アジアのジャーナリズム史の一端を明らかにしたことが学術的・社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：This study clarifies the circumstances and historical background of the branches of Asian countries that participated in the PANA news agency network, the profiles of the journalists involved, and the significance of the agency in the complex geopolitical context of Cold War Asia. For example, it reveals that the PANA office in Bangkok was managed by an ethnic Chinese journalist who was also involved in USIS (United States Information Service) work and the establishment of the Foreign Correspondents' Club. It also highlights instances where national leaders and kings issued international statements through the PANA news agency.

研究分野：社会学

キーワード：ジャーナリズム　メディア史　通信社　アジア史　マス・コミュニケーション　マスメディア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

研究開始当初の背景としては、以下の二つがあった。

一つ目は、国内・国外の研究動向である。国際情報流通の格差については、その古典であるハワード・フレデリック『グローバル・コミュニケーション』（松柏社、1996）他、多くの先行研究が「歪み」や英米バイアスを指摘している。非欧米世界は欧米メディアの観点で一方的に表象されることが多く、自国のことですら自国の観点で報道することができないのが現状である。このことは現在の異文化間紛争を悪化させている一要因でもあり、改善すべき喫緊の課題だと言える。一方、国内研究では日本の国際情報発信の在り方について、江口浩『報道戦争』（晩聲社、1997）、東京経済大学大学院コミュニケーション学研究科編『日本の国際情報発信』（芙蓉社、2004）などが問題点を検討し、日本およびアジアの積極的な国際情報発信を提言している。しかしながら、それまで研究に不足していたのは、過去の取組みについての検証である。PANA 通信社（Pan-Asia Newspaper Alliance）は、欧米偏重の国際情報体制の中でアジアからの情報発信を目指して創られた国際通信社であったが、その記録や研究は皆無である。本研究は汎アジア・メディアとしてアジア報道に絶大な存在感を持った PANA 通信社を取り上げ、同社がどのようなメディアであり、またなぜ継続しなかったのかを精緻に考察することで、国際情報流通をめぐる議論に全く新しい観点からアプローチすることを企図した。

もう一つは、自身のこれまでの研究である。本研究は、筆者が長年行ってきたアジア報道の研究過程で着想を得たものであった。PANA 通信社は、ジャーナリストの宋徳和が GHQ 占領下の東京でアジア 11 カ国の記者とともに立ち上げた通信社であり、講和条約後も独自のネットワークでアジア報道を牽引した。とりわけ東京オリンピックやヴェトナム戦争をめぐる戦後アジア報道で圧倒的な影響力を誇っていた。しかしながら、60 年代後半に時事通信社に買収され、同社のアジア戦略の一環として組み込まれ消失していったことからその功績は忘却されたままである。そこで、筆者はこれまでの研究で、戦後日本における PANA 通信社の活動と、時事通信社が買収をした背景と経緯について考察し明らかにした。同研究は日本のメディア史の中で空白となっていた通信社史を掘り起こし、国際情報体制に挑戦した唯一の汎アジア・メディアを戦後ジャーナリズム史上に位置づけたものである。

しかしこれまでの研究は、PANA 通信社の日本における動きに対象を限定したものであった。多様な国々によって成り立つ PANA 通信社の歴史を総体的に明らかにするためには、アジア各国支社の動きを重層的に明らかにすることが必要である。したがって本研究は、これまで行ってきた日本を中心とする研究をアジア諸国にまで広げ、より包括的に同社の実態を明らかにしようと考えたのである。

２．研究の目的

本研究の目的は、汎アジア・メディアとして戦後報道を牽引した、PANA 通信社の歴史的内実を明らかにすることであった。国際ニュース市場は長らく欧米メディアの独壇場となっており、非欧米諸国は情報の送受信に置いて主体性を発揮しにくい状況にある。中東や中南米では複数国家にまたがって構築された汎リージョナル・メディアが地域としての情報発信を試みているが、言語が多様なアジアでは現在そのような事例は見られない。そこで本研究は、かつて存在した PANA 通信社の歴史を掘り起こし検証することで、今後新たに汎アジア・メディアを構築していく際の基礎資料となることを目的とした。

具体的には、以下のことを明らかにすべく立案された。

(1)各国の PANA 通信社はどのような社会的・政治的背景のもとで形成されたか

PANA 通信社が創設された 1950 年前後は、中華人民共和国の建国や朝鮮戦争の勃発などに象徴される激動の時代であった。戦後の政治状況や社会情勢を背景に PANA 通信社がどのような経緯で実現にいたったのかを、各国の事情に即しながら調査し明らかにする。

(2)各国の PANA 通信社の運営実態や報道はどのようなものであったか

各国 PANA 通信社の規模や経営状況、アジア諸国間の重層的なネットワークを調査する。同社のジャーナリストたちはほぼ例外なく各国のエリートであった。彼らのライフヒストリーにも着目することで、当時のアジアのダイナミズムの中で PANA 通信社がいかなる存在であったのかを描出する。

(3)時事通信社による買収の背景・交渉過程・その後の経緯はどのようなものであったか

時事通信社に買収されることになった経営的・社会的・人的理由を総合的に検証し、交渉をめぐる経緯と利害関係を整理する。そして買収後はどのように業務を変化させていったのかを調査していくことで、結果的に PANA 通信社が継続しなかった原因を解明する。

上記の調査結果を、それまで研究してきた日本の PANA 通信社・時事通信社に関する分析と

統合し、PANA 通信社の歴史的実態を総体的に明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

本研究ではアジア 11 か国の PANA 通信社を 4 つに区分し、6 年間をかけて順に調査を行った（当初の予定では 4 年であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により 2 年の延長申請をした)。手順としてはまず、各国の PANA 通信社関係の書籍、記事、論文等を収集した。所属研究機関図書館のレファレンスサービス、「World Cat」、各国のインターネットサーチエンジンを使用し、収集した公開情報をもとに当該国の PANA 通信社の実態を考察した。

加えて、主たる研究方法は聞き取り調査によるオーラル・ヒストリー研究である。PANA 通信社がすでに存在しないことや、通信社という性格上、報道内容が体系的に残っていないため、聞き取り調査が最も妥当だと考えたためである。PANA 通信社の OB・OG、関係者、遺族らにインタヴューを実施し、各国 PANA 通信社の①形成過程、②業務内容、③時事通信社による買収前後の経緯、を掘り起こし分析することで同社の歴史を総合的に明らかにした。

また、当初の計画ではアジア各国への現地調査を実施予定であったが、新型コロナの影響により渡航ができなかった国もある。それでもタイやラオスでの調査を実施することができ、そこでの成果は下記の研究を発表することにつながった。

４．研究成果

本研究により、PANA 通信社のネットワークに参加したアジア諸国支社の状況・歴史的背景、携わったジャーナリストの人物像、そして冷戦期アジアという複雑な地政学的位置において同社の果たした意義について明らかにすることができた。

成果として、『PANA 通信社と戦後日本　汎アジア・メディアを創ったジャーナリストたち』(人文書院、2017 年）を刊行した。本書は本研究課題の初期に刊行したものであり、課題採択以前になされた研究成果も含まれているものの、シンガポール PANA に関する部分は採択後の研究成果が大半を占めている。シンガポールについては、日本占領時代に日本語を学んだジャーナリストの陳加昌の果たした役割が大きく、東南アジア報道全般で注目される発信を行った他、シンガポールにおける日本語新聞の発行にもつながった経緯を明らかにした。

その他、「タイの PANA 通信社とアレックス・ウー　外国特派員協会と華僑社会における位置づけを中心に」(『貿易風』2021 年、中部大学国際関係学部）では、バンコク PANA の支局長だったアレックス・ウーに焦点を当て、彼が USIS（アメリカ合衆国広報局）の中国語編集責任者や外国特派員協会設立も行った華僑のジャーナリストであったことなどを明らかにした。

以上のように、戦後東南アジアの国際的地位が現在よりも著しく低かった時代にジャーナリストたちが協力し合い、「アジアのための通信社」たらんとした PANA 通信社の歴史の一端を解明することができた。上記で研究成果を挙げた以外の国々についても、その調査結果を発表すべく準備を進めているところである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 岩間優希	４．巻 158・159
２．論文標題 博物館における戦争展示と国境を越えるメディアについて	５．発行年 2023年
３．雑誌名 歴史の理論と教育	６．最初と最後の頁 pp.31-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩間優希	４．巻 16
２．論文標題 タイのPANA通信社とアレックス・ウー：外国特派員協会と華僑社会における位置づけを中心に	５．発行年 2021年
３．雑誌名 貿易風	６．最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岩間優希	４．巻 23
２．論文標題 ラオスのPANA通信社とTcheng-Tse Choen	５．発行年 2020年
３．雑誌名 アリーナ	６．最初と最後の頁 p.702-707
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩間優希	４．巻 14
２．論文標題 ヴェトナム戦争期の名古屋における脱走米兵支援活動	５．発行年 2019年
３．雑誌名 貿易風	６．最初と最後の頁 7－20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 岩間優希
2．発表標題 コメント：博物館における戦争展示と国境を越えるメディアについて
3．学会等名 名古屋歴史科学研究会 ，名古屋大学（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 岩間優希
2．発表標題 岡村昭彦とヴェトナム戦争報道
3．学会等名 岡村昭彦文庫開室10周年・岡村昭彦資料室開設記念講演会（招待講演）
4．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

1．著者名 岩間優希	4．発行年 2023年
2．出版社 風媒社	5．総ページ数 112
3．書名 世界は舞台――江川淑夫小伝	

1．著者名 岩間 優希	4．発行年 2017年
2．出版社 人文書院	5．総ページ数 326
3．書名 PANA通信社と戦後日本――汎アジア・メディアを創ったジャーナリストたち	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関